

2021 年度第 2 回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2021 年 10 月 25 日（月）13 時 30 分～16 時 30 分

会 場：豊岡市役所本庁舎 5 階 会議室 5-1

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、土川忠浩、内海京子、木築基弘、西垣由佳子、野世英子、
菅村定昌、洞田美津子、毛戸 勝、戸田勝之、中村 肇、

欠席した委員：山田博文、島崎邦雄、山下正明

事 務 局：市民生活部 部長 谷岡慎一、生活環境課 課長 成田和博

地球温暖化防止対策室 室長 井上浩二、主事 大逸優人、主事 岸谷依子

傍 聴 者：齋藤栄理香（農業スクール生）

1 開会（司会：井上室長）

- ・会議の公開、会議録の公表を確認
- ・配布資料の確認

2 あいさつ

- ・山室会長より挨拶
- ・谷岡部長より挨拶

3 協議（議長：山室会長）

【会 長】次第に沿って進める。2020 年度環境報告書（案）について事務局から説明をお願いする。

【事務局】本日の審議会では環境報告書の第 2 部と第 6 部について審議いただく。第 2 部については前回の審議会の指摘を受け、目標像①～⑩の修正を行った。修正、追加箇所や評価、トピックスの内容について意見をいただきたい。第 6 部については本日の審議会に出た意見をまとめる。事前に「第 6 部環境審議会の意見」記入用紙を配布しているので、主体毎に評価・課題・期待することについてご意見いただきたい。審議は目標像①の第 2 部、第 6 部の順番で、目標像⑩まで審議する。

【会 長】事務局から説明があったとおり、目標像①の第 2 部、第 6 部の順番に審議するがとりわけ第 6 部について意見をいただきたい。今回審議した内容について、第 6 部に記載するほか、第 5 部にも反映させ市役所の担当課から回答をいただくようにする。

目標像① 「手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます」

【事務局】 第2部の説明に入る前に新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動が中止になったため「参加者数、利用者数、実施数」などの評価は適さないことから2020年度においては評価の対象から外している。

目標像①の第2部では、グラフ「市内の除間伐面積」で、“兵庫みどり公社”を“ひょうご農林機構”に変更した。グラフ「広葉樹苗木提供数」で、“種組成が豊富になったり、伐期がずれることで長期収入にもつながります。”という文言を追加した。グラフ「所有別森林面積」では、表を棒グラフに変更し種組成の表記を追加した。グラフ「間伐材供給量」では、2019年度にペレット原料として市内でストックしていた間伐未利用材を加えて供給したため一時的に供給量が増えたことと2020年度は通常の供給体制に戻り、朝来バイオマス発電所との協定に基づく割当量以上の供給実績となった旨を追記した。トピックスについては、「森林環境譲与税の用途」について記載し、評価についてはバイオマス発電所へ間伐材を順調に搬出しているとし、「この調子でがんばろう」の評価とした。

【委員】 グラフ「森林整備面積」について、2014年度と比べて2015年度で半減している理由は何か。

【事務局】 担当課に確認し、改めて回答する。

【委員】 グラフ「広葉樹苗木提供数」の長期収入の部分は針葉樹か広葉樹かどちらか。ケヤキやブナ等の広葉樹は50年以上のものしか建築資材として使えないため、家具材等別の用途として利用を進める旨も記載すると良いのではないか。

【事務局】 長期収入につながる理由についても具体的に記載するよう検討する。

【会長】 続いて、目標像①の第6部について意見をいただきたい。

【委員】 木を切って燃やすだけでなく、木作品や家具を作ったりして、より付加価値のあるものを生み出していく必要がある。また以前、朝来バイオマス発電所を視察した際に非常に価値のある木がいっぱい置いてあった。せめて伐採した広葉樹と針葉樹を仕分けするようなことができないか。その中でバイオマスで発電するものや木材として使えるものを分けた方が良いと思うし、利用価値もより高まるのではないか。

目標像② 「里山が様々に利用され、関わる人が増えています」

【事務局】 続いて、目標像②の第2部に移る。前回の審議会の意見を踏まえ、“シカの数減少してきているものの、ヤマビルやマダニの生息域や個体数が増加しており、被害も増加している傾向にあります”と追加した。グラフ「シカ有害被害撲滅大作戦」の捕獲状況について、“2020年度は降雪量が多かったため、狩猟数が減少しています”と文章を追加した。トピックスについて、2021年3月20日に加陽水辺公園で開催された森林体験イベントについて記載。評価項目については、前回の審議会の意見を基に内容を一部修正削除し、「○シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数6,500頭を達成している」に、「有害駆除数が初めて5,000頭を超えました」を追加。評価は前回同様「この調子でがんばろう」とした。

【委員】 グラフ「シカ有害被害撲滅大作戦」の捕獲状況について、シカの数が増えている根拠はあるか。感覚的には増加しているように思えるので、データがあると良い。

【委員】 客観的な数値データはないが、植物が食べられた形跡は明らかに少なくなっているように思う。

【委員】 シカをどこで捕獲したか、分布図はあるのか。あるならシカ、イノシシ等種別に色分けしてあると良い。どのあたりでどんな被害があったか、どこで捕獲したかが目に見えて分かれば、減少効果が明確になるのではないか。

【事務局】 担当課に確認する。

【委員】 追記された、ヤマビルやマダニの生息域、個体数増加についてはグラフ「有害鳥獣駆除数」の直下に配置した方が良いのではないか。

【会長】 指摘のとおり変更する。続いて、目標像②の第6部について意見をいただきたい。

【委員】 食べきれない野菜の畑への放棄や、二番穂の放置など有害獣を人里に誘因している原因がたくさんあるので、その原因をいかに排除していくか、提案ができれば良いと思う。

目標像③ 「使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています」

【事務局】 続いて、目標像③の第2部に移る。グラフ「農家数の推移」の説明に、“高齢化や担い手不足により農家数が減少していると考えられます。”を追加した。グラフ「環境創造型農業作付面積」について、“集落営農への移行や大規模農地の集約、気象条件の悪化や獣害被害など、様々な要因により、作付面積は減少傾向にあります。”と、文章を追加した。グラフ「学校給食での地場産物利用率」について、2020年度の数値をグラフに追加し、“2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国平均が算出されていません。”と、説明を追記した。また、「たじまんまでの豊岡産物販売額割合」についてグラフと説明を追加した。グラフ「ビオトープ水田面積」について、2020年度の数値を13.1haと記載しているが、正しくは12.9haなので修正して下さい。トピックスについて、「環境保全型農業と生物多様性」をテーマに記載した。評価項目については、前回の審議会が出た意見を踏まえ、「○農業スクール卒業生が豊岡で就農したり、多様な農業の担い手が増えつつある」を削除し、「○学校給食での地場産物利用率が、目標利用率を達成している」と「▲経営耕地面積が減少している」は、「たじまんまでの委託販売における豊岡産物販売額割合が8割を超えている」を追記し、評価を「この調子でがんばろう」とした。

【委員】 内容について問題ないと思うが、経営耕地面積が減少しているのに、「この調子でがんばろう」という評価があるのは違和感がある。表記を見直した方が良いのではないか。

【会長】 表記については検討する。ちなみにグラフ「たじまんまでの豊岡産物販売額割合」については、2020年度のデータしかないのか。

【事務局】 2020年度からデータの集計システムが変わったため、2020年度以前のデータが出せない。ある程度データが揃った際にグラフの見せ方を変える。

【委員】 たじまんまでの豊岡産物販売額割合について、野菜や花等細かく内訳は出せるか。

【事務局】 担当者に確認したが細かく伝票を確認することができなかったので、まとめてデータを提供いただいた。データ提供できる部分について再度確認し、記載できるカテゴリについては追記していく。

【会 長】 続いて、目標像③の第 6 部について意見をいただきたい。

【委 員】 市内にある一部のマルチトープ（中干しの際、生きものが退避できるように作られた水田用水の迂回水路）がほぼ機能していなかったため田んぼに戻された。初心に戻って生きもの大切さをあらゆる世代の人たちが再認識すべきである。

目標像④ 「あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます」

【事務局】 続いて、目標像④の第 2 部に移る。「清掃活動」の説明について、“ボランティアで清掃活動をしてくださる市民や事業者がいることで、海や河川がきれいに保たれています。回収されている方々を頼るだけでなく、【ごみを出さない】という努力も求められます。”と、追記した。「これまでの活動例」には、豊岡市商工会出石支部の活動を追記した。トピックスについては、豊岡総合高校インターアクトクラブが「スポ GOMI 甲子園 2020」に参加した内容について記載した。評価項目については、「○川や海岸を清掃するボランティア活動が市内各所で継続的に行われている」を削除し、「○子どもたちの川での体験活動が定着している」を新たに記載し、評価は「もっとがんばろう」とした。

【委 員】 近年、海洋ごみを回収する企業や団体が増えているだけでなく、ごみ拾い自体がイベントとして人気が高まっている。ただ、美化や清掃という領域だけで終わってしまっているのもったいない。ごみを拾う前に、日常生活でできるだけごみを出さないという意識や努力することが大切。

【委 員】 ごみ拾いのイベントが盛り上がっていることについて数字やデータ等の裏付けがあれば、評価に入れるべき。

【事務局】 根拠になるような情報があれば、記載したい。

【会 長】 続いて、目標像④の第 6 部について意見をいただきたい。

【委 員】 清掃活動について、竹野でも 60～70 人規模のボランティアクラブや竹野浜を美しくする会等の清掃団体がごみ拾いをしている。更に、年 1 回海底ごみの清掃活動も行っているので、これらの団体の活動も報告書に掲載してもらえると嬉しい。

目標像⑤ 「コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています」

【事務局】 続いて、目標像⑤の第2部に移る。グラフ「コウノトリ野外個体数」および「野外コウノトリの繁殖状況」の2020年度の実績値を追加した。トピックスについては、豊岡市が「グリーンインフラ大賞」を受賞したことと、NPO法人コウノトリ市民研究所が発行した冊子「豊岡市のレッドデータ生物」について記載した。評価項目については追加・変更点なし。評価については前回の審議会同様「この調子でがんばろう」とした。

【委員】 トピックスで、「豊岡市のレッドデータが作られていること」と記載があるが「豊岡市のレッドリスト」または「豊岡市のレッドデータブック」のどちらかに表記を変える方が良い。

【事務局】 豊岡市のレッドリストに表記を変更する。

【会長】 続いて、目標像⑤の第6部について意見をいただきたい。

【委員】 第5部の目標像⑤に「加陽湿地で取り組むフジバカマの再生事業等の活動が拡がることを望みます。」とあるが、フジバカマ以外にも数多くの絶滅危惧種が生息しているため、各小学校単位で絶滅危惧種を保全していくことが望ましい。

【目標像⑥】 「様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます」

【事務局】 続いて、目標像⑥の第2部に移る。「地域コミュニティの行事事例」では、2020年度地域コミュニティ組織活動事例集に基づき中竹野地区コミュニティの取り組みを追加。また、八代、小坂地区を含め3つのコミュニティの取り組みを記載した。トピックスについては、いずし中川の郷づくり協議会の取り組み「生きもの調査で世代間交流」について記載した。評価項目について、「○地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域を学ぶことが子どもたちに浸透している」と、記載を一部変更した。評価は前回の審議会同様「この調子でがんばろう」とした。また、コミュニティ政策課が作成した「豊岡市地域コミュニティビジョン」に、「地区の伝統や文化が次世代にうまく継承されている」について記載があるので、併せてご確認いただきたい。

【会長】 先ほど事務局から説明のあった豊岡市地域コミュニティビジョンに加え、豊岡市歴史文化基本構想に基づいて作成された「豊岡の宝もの」を守り、活かすために」という冊子を参考資料として配布している。目標像⑥に関わる内容が

含まれているので、資料の記載内容を踏まえて意見をいただきたい。

【委員】目標像⑥「様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます」とあるが、祭りについて記載されていないので追記した方が良いのではないか。

【会長】「地域コミュニティの行事事例」、八代おもいやりネットの花火大会がコロナウイルス感染防止のため中止になった旨について記載している。来年度以降もコミュニティの活動を記載していくと思うが、その際に祭りの要素を記載していきたい。

【委員】コミュニティで実施するイベントでは自然、文化、歴史だけでなくその地に住む人の魅力を伝えることも必要。

【委員】各地域の伝統や歴史をまとめた冊子をトピックスで紹介するのはどうか。

【会長】次年度の環境報告書で、地域冊子について掲載できるか検討する。続いて、目標像⑥の第6部について意見をいただきたい。

【委員】地域の伝統は絶えず変化している。移住者の話や地域の中で頑張っている人の話を聞き、新しい伝統を作っていくのはあなたたちだという意識を醸成させることが大切ではないか。同時に、昔からある地域の歴史はしっかり残し、先人の努力を再評価する場をつくることも必要だと考える。

【目標像⑦】「子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています」

【事務局】続いて、目標像⑦の第2部に移る。図「市内各小学校区のビオトープ水田面積」で、前年度の比較が分かるように括弧書きで増減値を記載した。トピックスは「コウノトリ KODOMO かいぎ」について記載し、評価項目については、「○コウノトリ KIDS クラブに定員以上の応募がある」と「○各地で子どもの自然体験活動が浸透している」を削除した。評価は、前回の審議会同様に「この調子でがんばろう」とした。

【委員】グラフ「高校生等地域研究支援補助件数」において、補助件数は年々増えているが2019年度から補助上限を10万円から5万円に変更している。取組みに参加する若者を増やすことが目的と記載があるので、補助については見直しが必要なのではないか。

【事務局】補助金額の変更の経緯として、補助件数の大半が5万以下の費用でおさまっていたため、5万円に減額した。意見があった旨担当課と共有し、補助内容等検討する。

【会長】続いて、目標像⑦の第6部について意見をいただきたい。

【委員】ふるさと学習で使われる副読本の内容がコウノトリに特化しており、他の自然環境についての記載がない。子どもたちが自然と触れ合える環境づくりが必要に思う。

【目標像⑧】「市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています」

【事務局】続いて、目標像⑧の第2部に移る。グラフ「燃やすごみ・燃やさないごみ搬入量」について、“人口は減少しているものの、世帯数が増加していることから、個別に収集するごみ量は増加する傾向にあります”と説明を追記した。トピックスは、「レジ袋の有料化」について記載し、評価項目については、「○市内にいつでも出せる古紙回収ボックスが浸透している」と「○農業用廃プラスチックの適正処理数が増えている」を削除した。評価については「もっとがんばろう」とした。

【委員】豊岡コミュニティでは、イベント時は毎回バザーを開くことにした。いらないものを持ち寄り販売することで、ごみの削減につながる。リユースイベントを増やす目標があれば、記載できると良い。

【会長】続いて、目標像⑧の第6部について意見をいただきたい。

【委員】県の会合に出席した際に紙コップのお茶が出てきた。また、地域のイベントではマイ箸やマイプレートを持参するよう促すコミュニティもある。ごみを減らすために、会議やイベントでは洗って何度も使えるものを持参することがニューノーマルになることを期待する。

【目標像⑨】「市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています」

【事務局】続いて、目標像⑨の第2部に移る。グラフ「市街地循環バス（コバス）利用者数」について、前回の審議会で意見があがったノーマイカーデー参加者数につ

いては第4部に記載している旨、表記した。トピックスは株式会社キヅキ商會が実施している「おすそわけ電源の輪」プロジェクトについて記載し、評価項目については、「▲コバス利用者が減少している」を削除した。評価については前回の審議会同様「この調子でがんばろう」とした。

【委員】 グラフ「豊岡市所有大規模太陽光発電所」記載の売電単価については、目標像の内容と合致していないので削除する方が良い。

【会長】 売電単価の表記を削除する。

【会長】 続いて、目標像⑨の第6部について意見をいただきたい。

【委員】 市内施設に設置している太陽光パネルが適切に発電しているか、検証が必要。

【委員】 二酸化炭素の排出割合のうち半数は電気の使用によるものだが、残り20%は車の使用で排出している。但馬では車の利用が多いため20%よりも多く二酸化炭素を排出していることになる。二酸化炭素の排出抑制となると電気の利用削減に目がいきがちだが、車を使う時間を減らすことも二酸化炭素排出抑制につながることを分かりやすく市民に啓発する必要がある。

【目標像⑩】 「環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています」

【事務局】 続いて、目標像⑩の第2部に移る。前回の審議会の意見を踏まえ、2020年度環境経済認定事業者の事業内容を追加。トピックスでは、JAたじまが「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」の有機農業・環境保全型農業部門において、農林水産大臣賞を受賞した旨について記載。評価項目では、「○市外からのボランティア活動の受け入れによる交流が継続している」を削除し、「○環境経済認定事業者が年々増加している」を追加した。評価は、前回の審議会同様「この調子でがんばろう」とした。

【委員】 評価項目で、コウノトリの舞認証品について記載するのはどうか。

【会長】 次年度以降で掲載について検討する。

【委員】 農業・農産加工物については記載があるが漁業・水産加工物について報告書に掲載されていない。

【委員】 漁業や・水産加工物については目標像⑦（子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています）に入れられないか。学校の給食で魚を残す子どもがとて多い。自然を大事にしないとおいしいものを食べられないことを身に染みて分らないと、生物多様性を守っていくことはできない。

【会長】 漁業・水産加工物についての記載に関して、検討する。続いて、目標像⑩の第6部について意見をいただきたい。

【委員】 環境経済認定事業について、認定されても登録業者へのメリットが少ないため、認定事業者の増加が見込めないのではないか。市の施策として認定事業者を増やそうと考えているなら、認定業者で扱う商品について行政からPRを行う等、事業者にとってメリットになるような支援はできないか。

【事務局】 担当課に共有する。

【会長】 次年度以降トピックスで、認定事業者同士の連携があれば記載できると良い。

【会長】 以上、目標像①～⑩について審議を終了する。本日意見をいただいた、第2部、第6部について事務局でまとめ、後日共有させていただく。

4 その他

- ・第3回環境審議会の日程について
- ・委員報酬の振込について

5 閉会

- ・雀部副会長あいさつ